

平成30年度 第2回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成30年8月7日（火） 午後2時～午後3時30分

【場 所】 豊田市役所 南庁舎5階 南53会議室

【出席者】 〈委員〉

尾碕 眞 [愛知学院大学商学部 客員教授]
松永 郁也 [豊田商工会議所 常議員]
大橋 宏 [豊田信用金庫 部長 中小企業診断士]
河原 郁子 [とよた下まちおかみさん会 平成30年度会長]
杉山 裕貴 [市民公募]
元岡 征志 [シー・プロジェクト代表 中小企業診断士／社会福祉士]
脇田 弘久 [愛知学院大学商学部 教授]

〈事務局〉

前田 雄治 [豊田市産業部部長]
早川 正文 [豊田市産業部商工振興室長]
清水 章 [豊田市産業部商業観光課課長]
疋田 一男 [豊田市産業部商業観光課副課長]
鈴木 啓介 [豊田市産業部商業観光課副主幹]
吉野 佑美 [豊田市産業部商業観光課担当長]
山崎 雄 [豊田市産業部商業観光課主査]

【傍聴者】 なし

【次 第】

開 会

- 1 産業部長あいさつ
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
- 5 その他

【会議録（要約）】

4 議事

(1) 商店街振興組合の補助金の不正行為による受給・返還（報告）

(2) 補助金の不正行為による受給等への対応について

(3) 次期商業活性化プランのニーズ把握方法について

(1) 商店街振興組合の補助金の不正行為による受給・返還

(2) 補助金の不正行為による受給等への対応
について説明を行い、委員から意見を聴取した。

【主な質疑応答】

委員

チェック機能を整えることで、再発防止になる。
抜き打ち検査等でチェックし、不正を牽制していく必要がある。

委員

市の対策としてはこれ以上のものはないと考える。何も言うことはない。

委員

イベント等、実施した後のチェックが必要。

委員

チェック機能を整えるというのは、マンパワーが必要だが業務として大丈夫か。

委員

補助事業者の大半は、ルールを守っているが、一部で不正があると、信頼性が失われる。税金を財源とした補助金であるため、市民の信頼性を得られるよう、きちんとルールを守っていくことが大切。申請時に見積書の添付を求め、実際に商店街等が実施するイベント時や写真において、確認を行うようにしたらどうか。

委員

対応策もきちんとやっているもので、問題ない。
ただ、今後は、どのようなことが不正にあたるのかというマニュアル化をしていくと良い。商業団体はイベント等の事業を実施するだけで疲弊しているように思う。補助制度が活用されるよう申請に必要な書類は少ないほうが望ましいのではないか。

事務局

今回は5年間分の再チェックをしたため、マンパワーは必要であった。新たに作成した確認表にあるチェック項目は、今までも通常業務の中で行ってきたことを明文化したものに、新たに4つの事項を追加したものであるため大きな影響はない。制度的な部分においては、全庁的な動きにも従いながら検討していく。

(3) 次期商業活性化プランのニーズ把握方法について説明を行い、委員から意見を聴取した。

委員

アンケートを行うのは良い。前回の調査との継続性も必要。ただし、前回のアンケートからインターネットでの購買状況が変わってきているので、その点も踏まえて質問すると良い。

委員

若い年代の人は、大型商業施設、高齢者は、地元の商店街を利用する傾向が高いように思う。

委員

他市町村等で実施されている事例に学ぶこともあるのではないかと。他に、成功している事例を参考にすると良い。

委員

アンケートをやっても、回答者が自身のニーズ・求めているものを明確に認識していることは少ないと思うので、質問の仕方に工夫が必要。切り口を変えて聞いてみると良い。

委員

よく売れている店のインターネット上の情報を見たり、写真映えするような場所を設けたり、成功する事例を参考にするのも手段かと思う。

以上